

令和3年度 学校教育評価 結果と考察

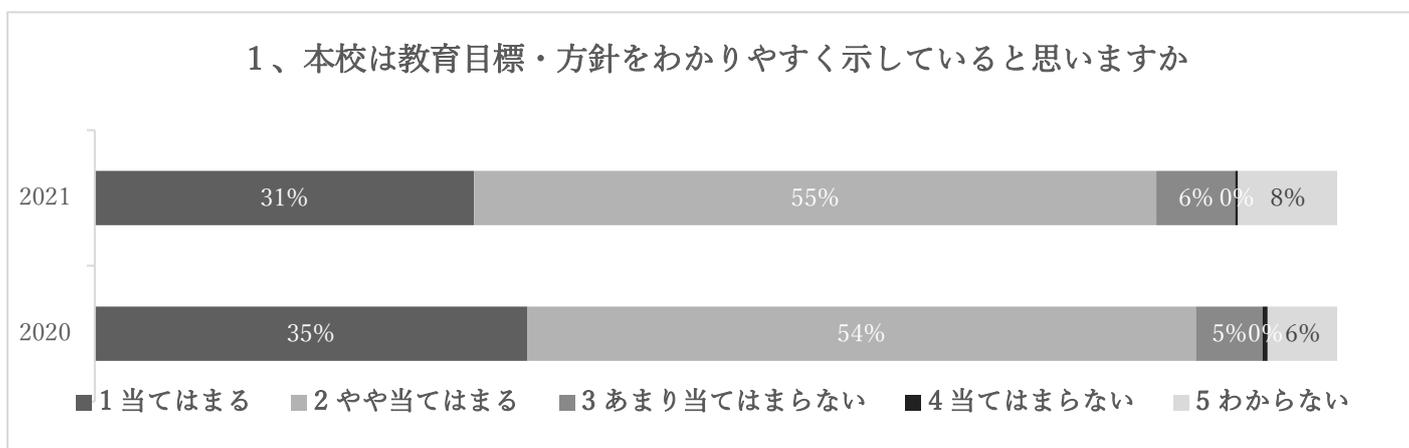
座間市立相武台東小学校

校長 浜田 佐織

本年度12月に保護者と児童を対象に実施いたしました「令和3年度学校教育アンケート」の結果と考察です。LINE「連絡とれ〜る」でお知らせし、学校ホームページにも掲載いたします。どうぞご覧ください。

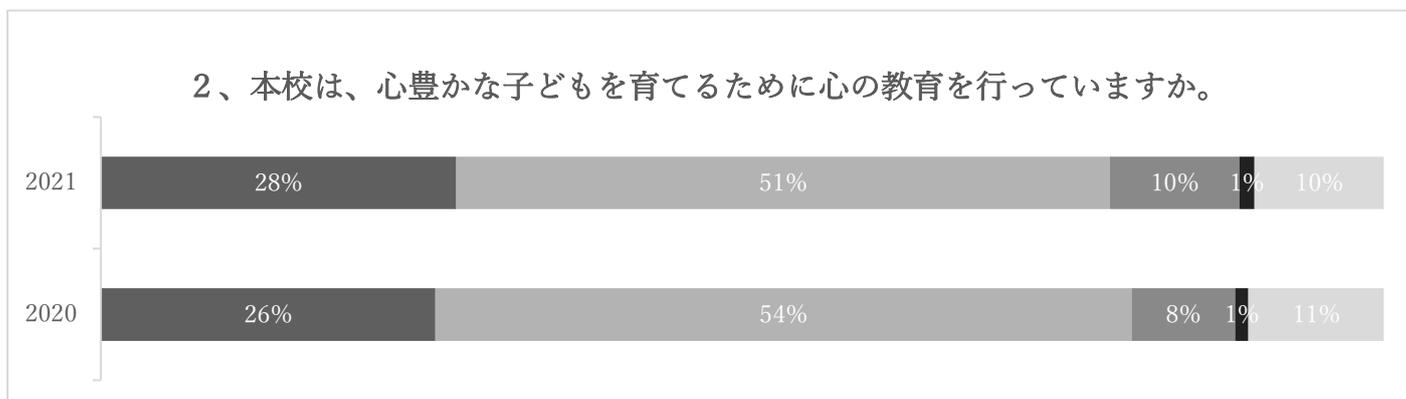
《保護者アンケートより》

◇ 学校経営方針に対する、保護者への周知と理解についての設問です。



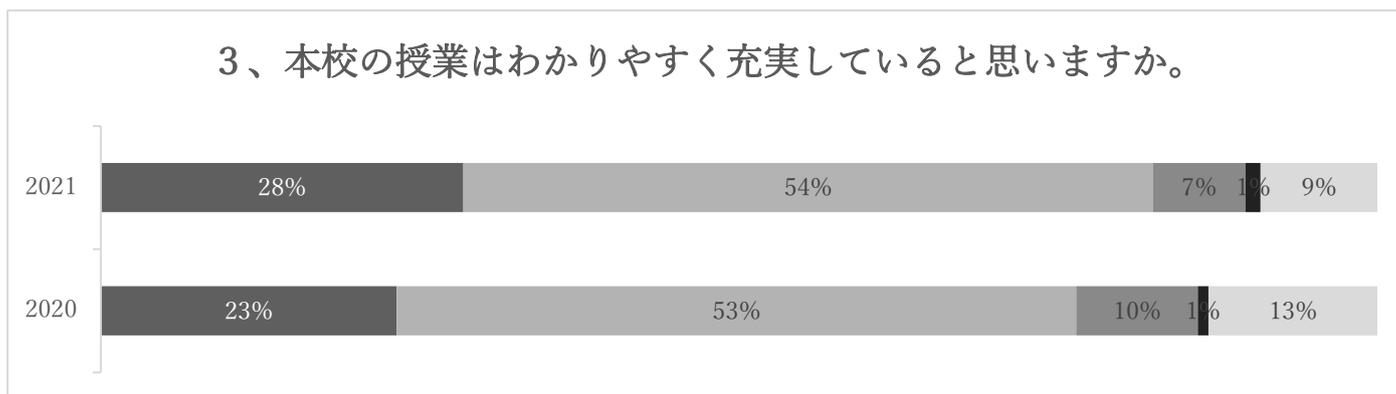
全体としては肯定的な回答が86%と一定の評価を受けていますが、『当てはまる』が昨年度より4%減少しています。これまでも、学校ホームページや校長室だより、学校だより等を通して伝えてきました。来年度から始まるコミュニティ・スクールの中でも、地域の方々や保護者により丁寧に教育目標や方針について伝えてまいります。

◇ 本校教育目標でもあり、座間市教育施策の大きな柱でもある「心豊かな子どもの育成」についての設問です。

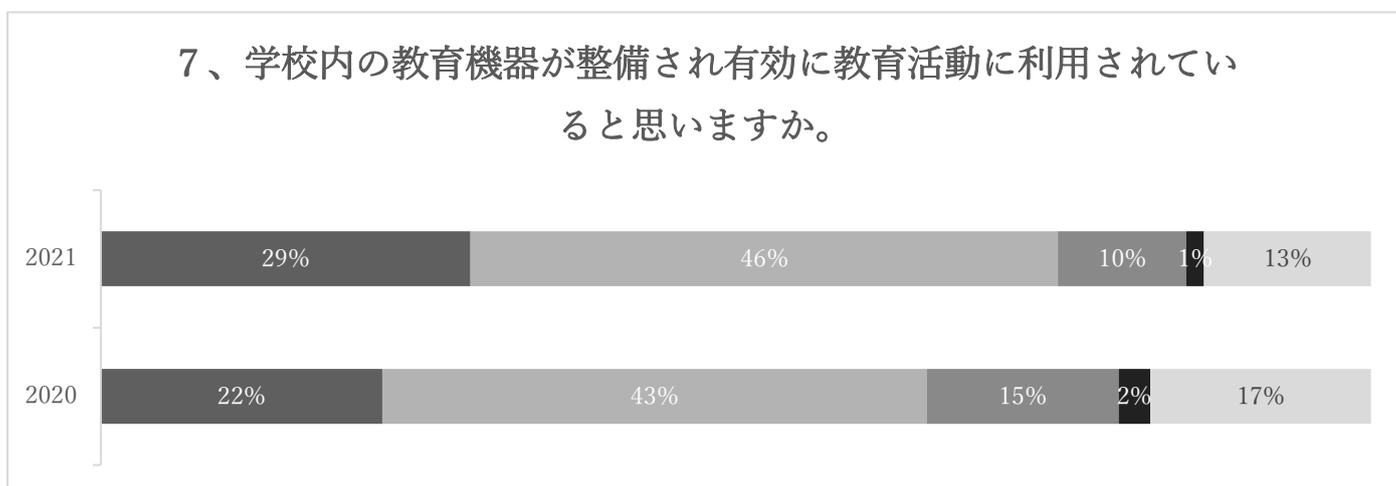
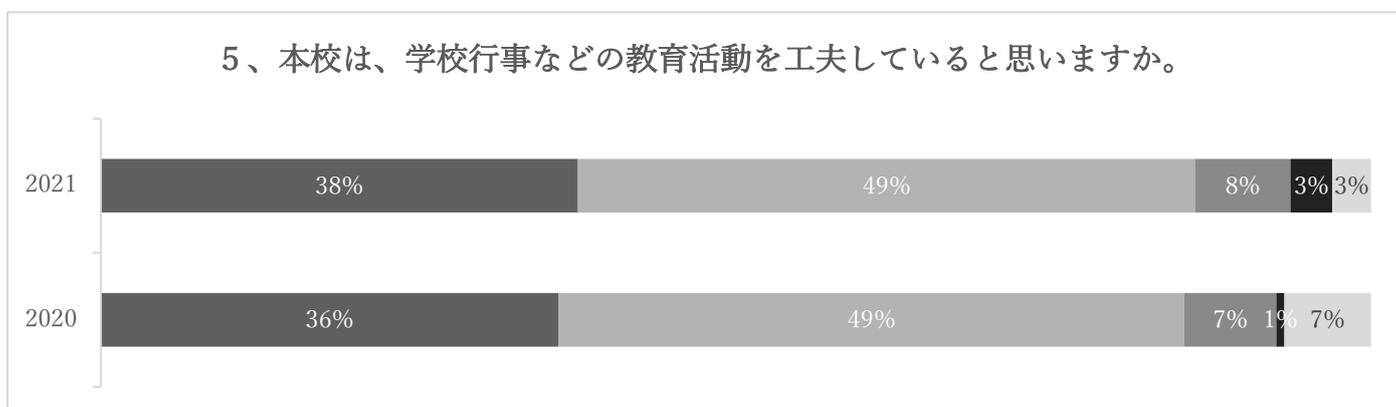


今年度は、コロナ禍であってもキャリア教育や栽培活動、芸術鑑賞等で体験活動や外部講師の活用を工夫しながら進めてきており、評価も向上が見られます。今後もすべての教育課程の中で、実体験を重視した創意を生かした取り組みに努め、心豊かな子どもを育てていきます。

◇ 児童にとって効果的な授業ができているかを問う設問です。

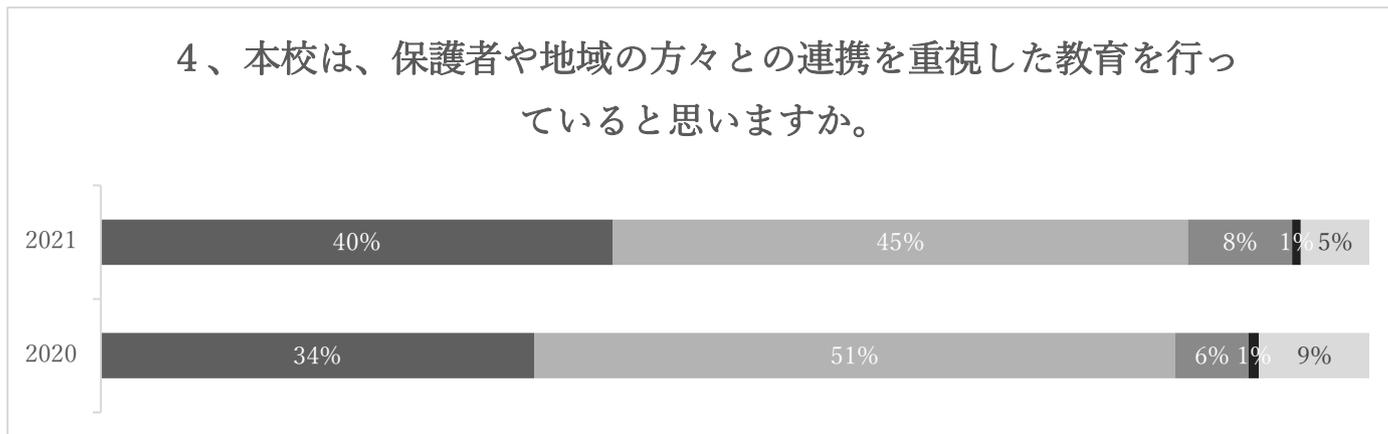


わかりやすい授業については「当てはまる」との回答が5%向上したことは大変うれしい結果です。本校は校内で学習指導要領に示されている主体的、対話的で深い学びについて研究を継続しています。その成果のひとつと捉え、今後も教職員全員で授業改善・充実に取り組んでいきます。



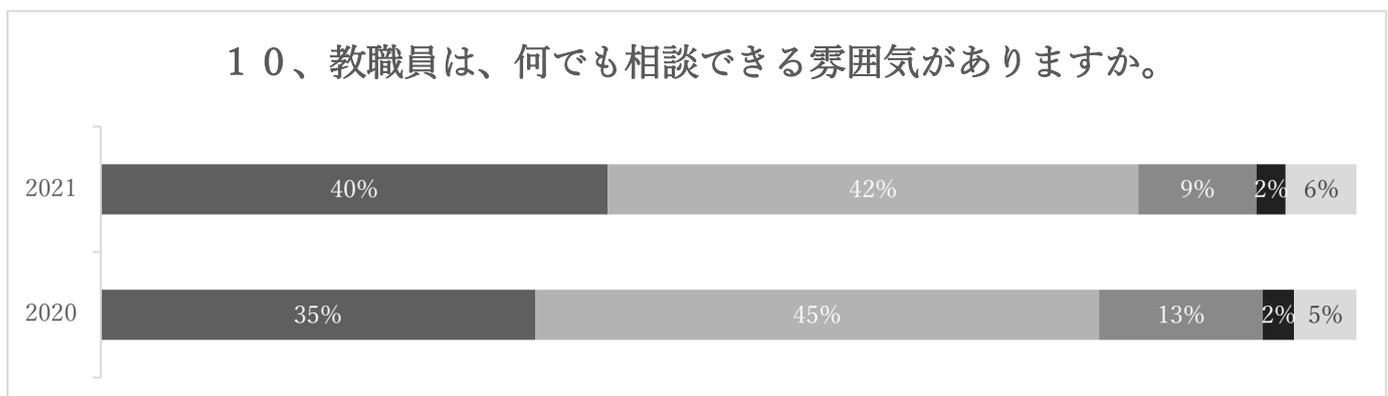
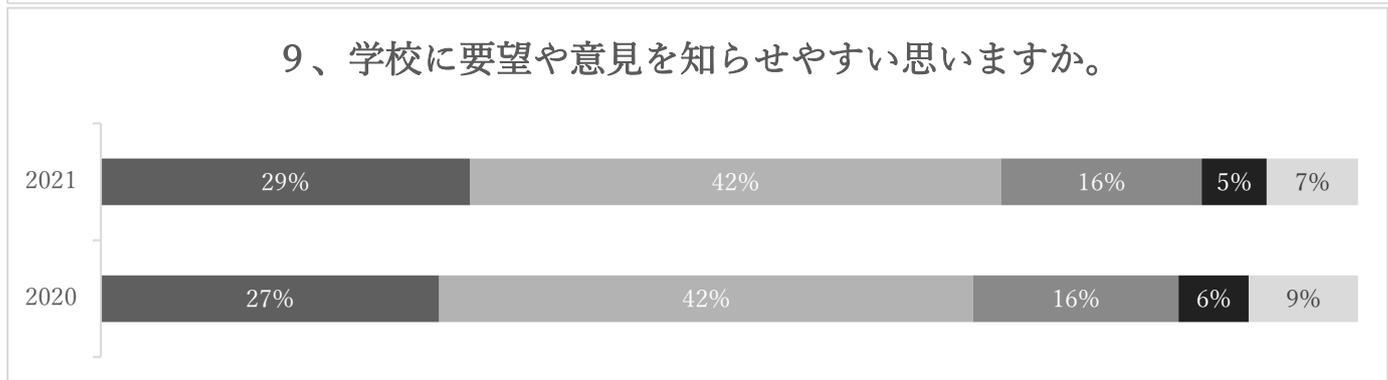
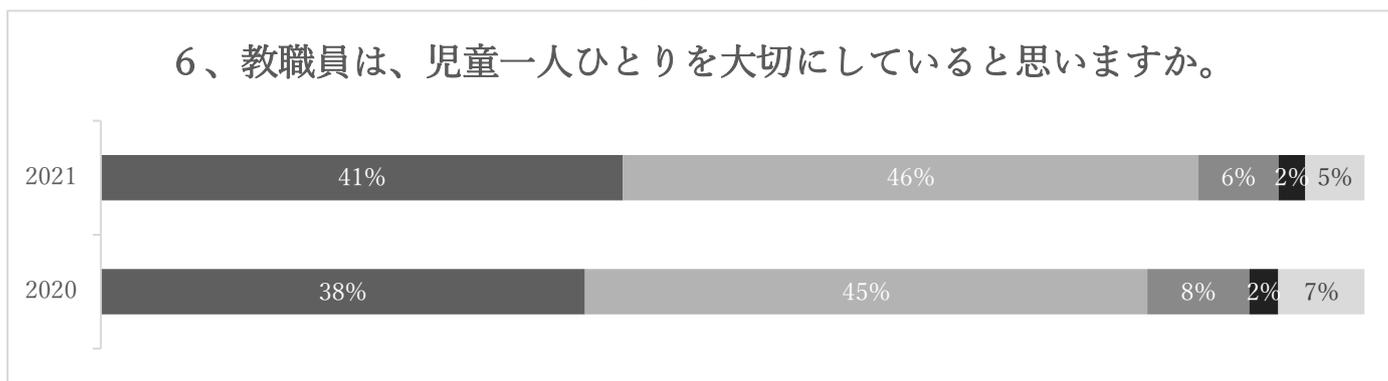
学校行事、教育活動の工夫や教育機器の整備と活用についても評価があがりました。どちらもコロナ禍の教育活動の必要に迫られた対応でしたが、教育活動の本質を見つめながら取捨選択し、ICT等の活用を進めたことが成果としてあらわれたと捉えています。次年度は学習用端末のさらなる有効活用と情報リテラシーの育成に力を入れていきます。

◇ 教職員の児童や保護者に対する、向き合い方や連携についての設問です。



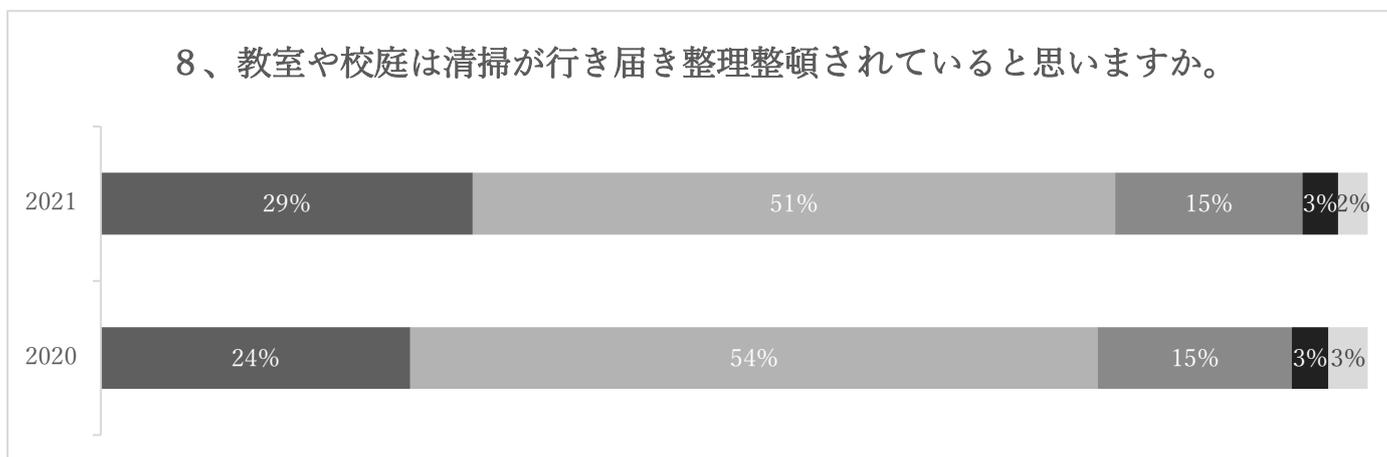
コロナ1年目は保護者や地域の方々との連携が取れなくなり大変苦慮しましたが、経験を経てコロナ禍であってもできる活動やつながりを模索し、実行することができるようになりました。この評価の上昇にその成果が感じられます。来年度からはコミュニティ・スクールもスタートする中で、さらに保護者や地域の方々との連携を工夫し進めていきます。

◇ 教職員の児童や保護者に対する向き合い方や連携についての設問です。



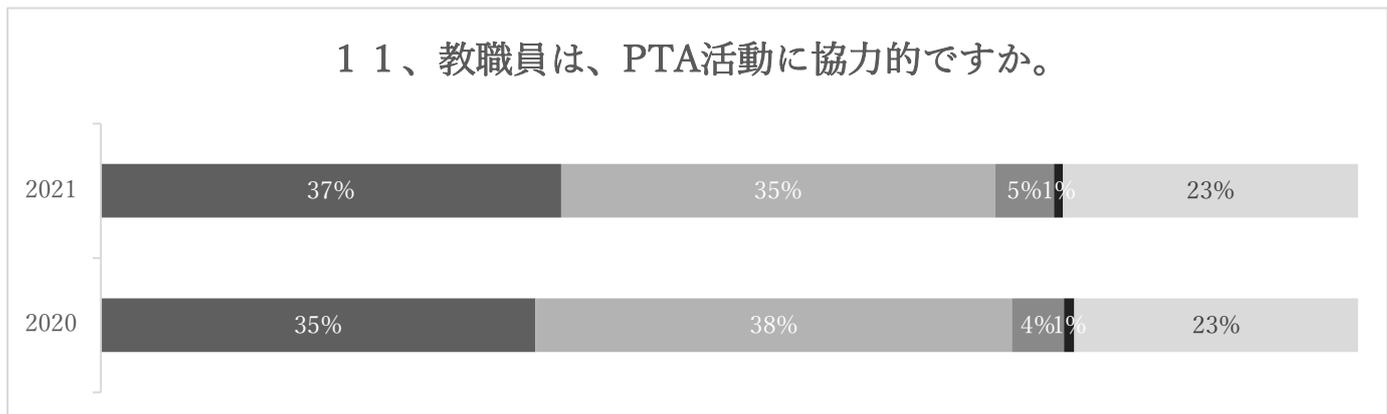
どの設問も「当てはまる」の回答が増えていることは、大変うれしい結果です。スクールカウンセラーや教育相談コーディネーターの活用や学校で教育相談体制の充実や個に応じた指導等に取り組んでいる成果と捉えます。コロナ禍という大きな困難を抱えながら日々を過ごす中で、児童や保護者の悩みや困り感はこれまで以上にありと捉えています。そのような児童や保護者に寄り添いながら支援できるよう、今後も相談体制の構築や、相談しやすい声をかけやすい教職員の対応を心掛けていきます。

◇ 環境整備状況についての設問です。



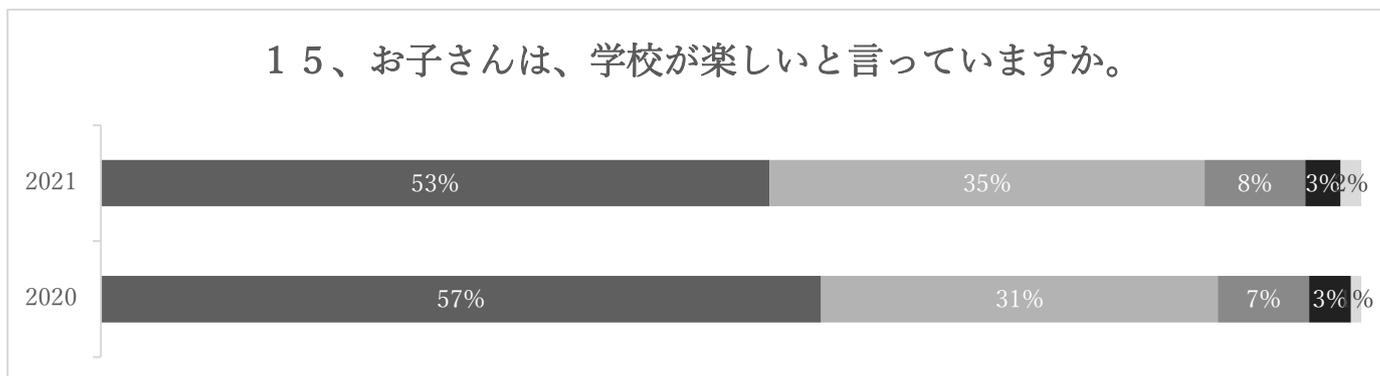
この設問についても年々肯定的な答えが増えています。コロナ禍にあって日々の清掃・消毒等を児童・教職員で丁寧に行ってきました。さらには業者による定期的なトイレ清掃・床清掃や、PTA による年間3回にわたり校地内整備等をしていただき、衛生的で整った教育環境が整備できています。今後も皆様の力もお借りしながら、安心安全な教育活動ができる環境づくりを進めていきます。

◇ 教職員の PTA 活動への参加状況についての設問です。

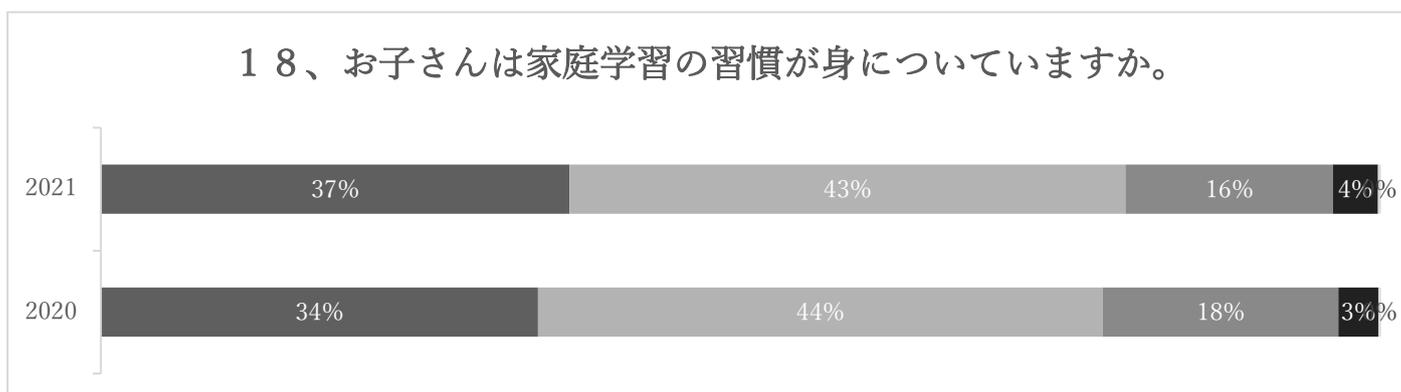
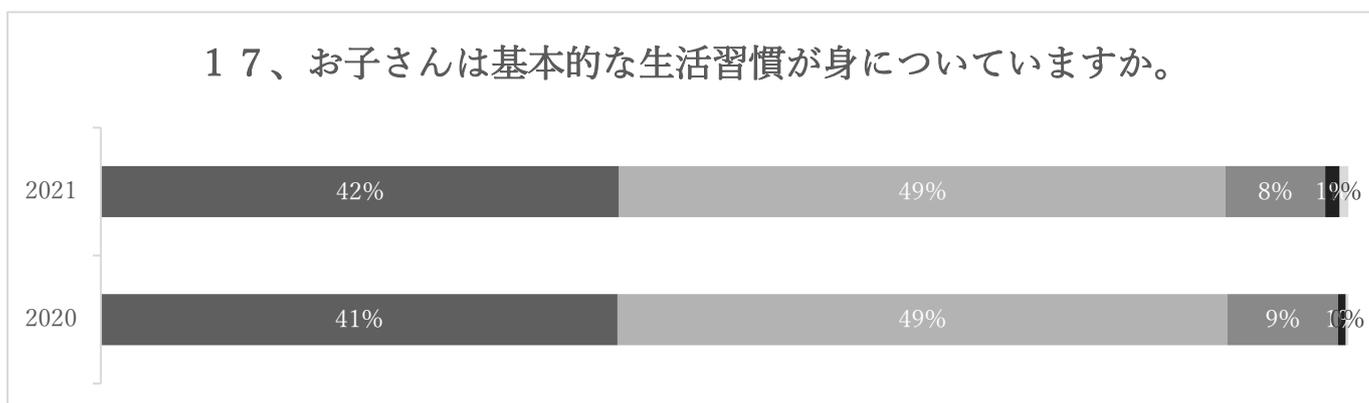
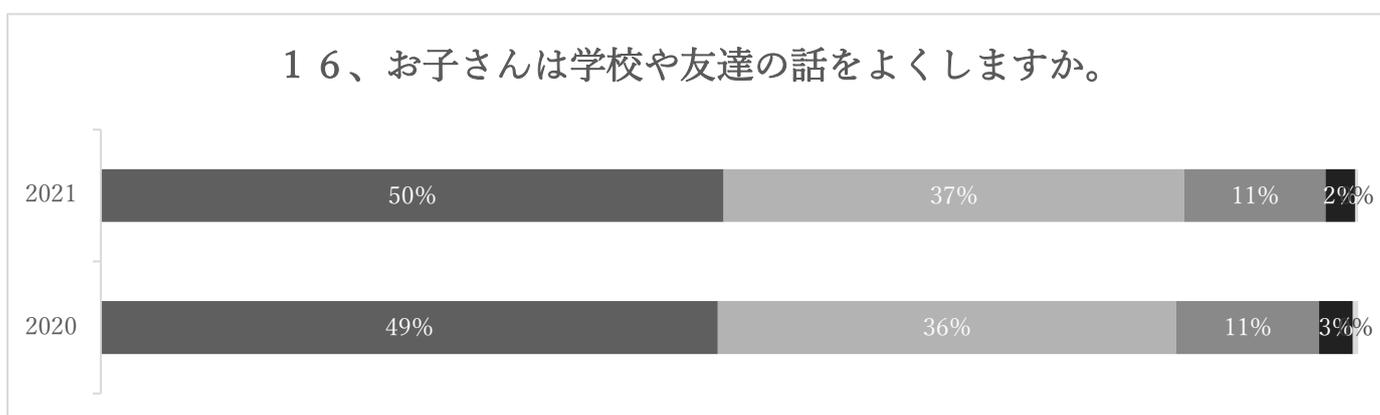


コロナ禍で PTA 活動も思うようにできない面もありますが、教職員はできる形で参加体制をとっています。ただコロナ以前は『当てはまる』が40%を超えていたことを踏まえると、今後こういった活動で協力できるかを探っていく必要があります。

◇ 家庭でのお子さんの様子についての設問です。

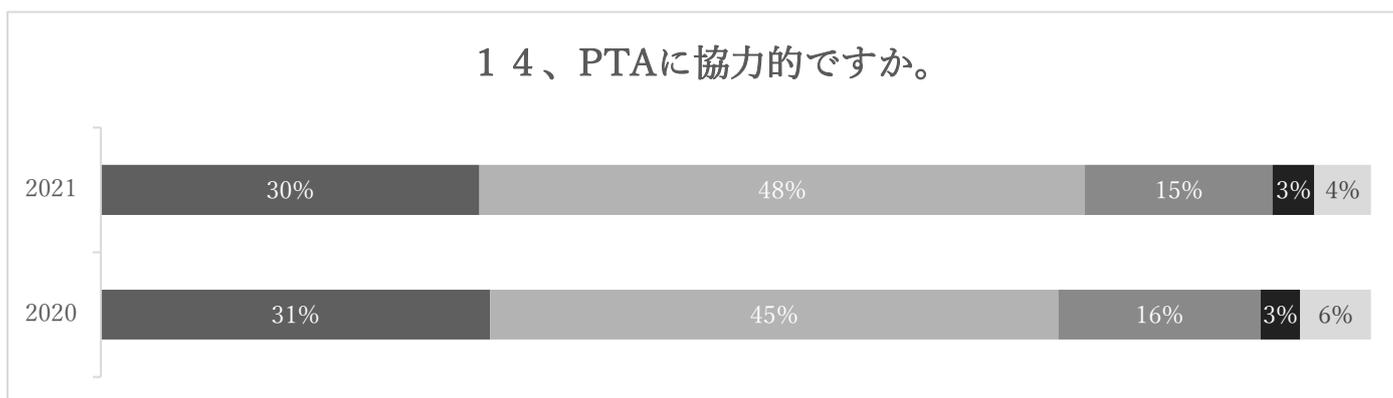
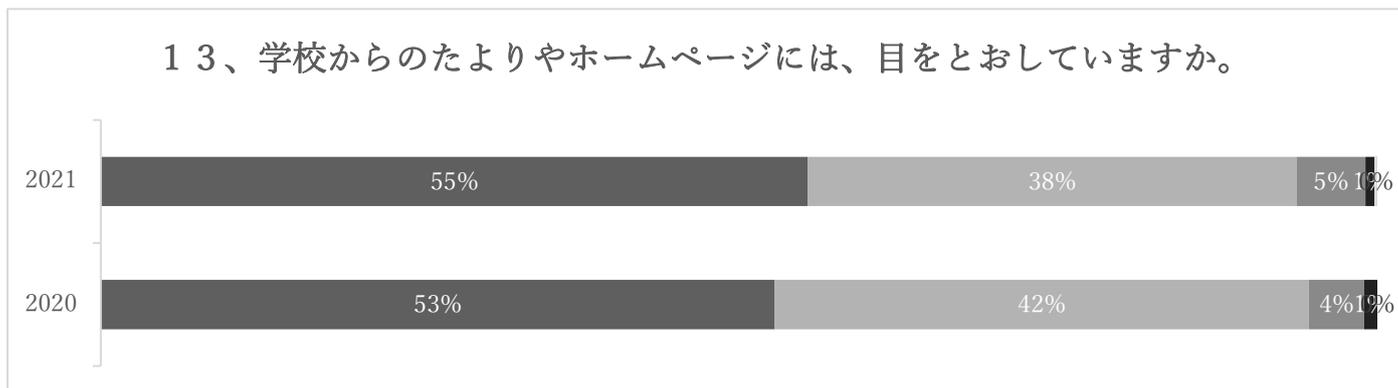
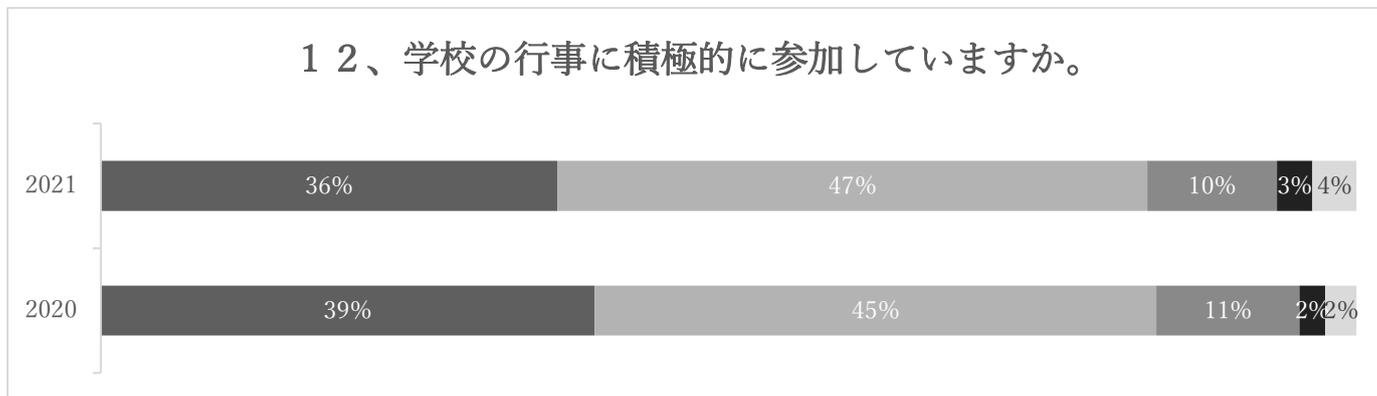


この設問については、残念ながら『当てはまる』という回答が減っています。友達同士のコミュニケーションが思うように取れないこと、学校行事等の児童が楽しみにしていたことが、中止や変更を余儀なくされたこと等が結果としてあらわれているように感じます。子どもたちが楽しいと思う学校づくりは大切です。学習活動はもちろんのこと、日々の生活や行事等、すべての教育活動の中で、一人ひとりが居心地良く過ごせる工夫を重ねていきます。また、児童にもより良い学校生活を楽しむために、自ら考え主体的に行動できるよう、指導・支援をしていきます。



これらの設問にはわずかですが肯定的な回答が増えています。コロナ禍であっても安定した生活をおくれている児童が多いことがうかがえます。児童を支えるご家庭での生活習慣は、充実した学校生活をおくる基盤となります。ご家庭での習慣作りのおかげであることに感謝し、今後も継続できるよう学校でも指導・支援を継続していきます。また、日々の宿題や家庭学習も定着の向上が見られます。今後も、より多くの児童が習慣化できるよう家庭と連携をとりながら進めていきます。

◇ 保護者の皆様の学校教育への関心についての設問です。

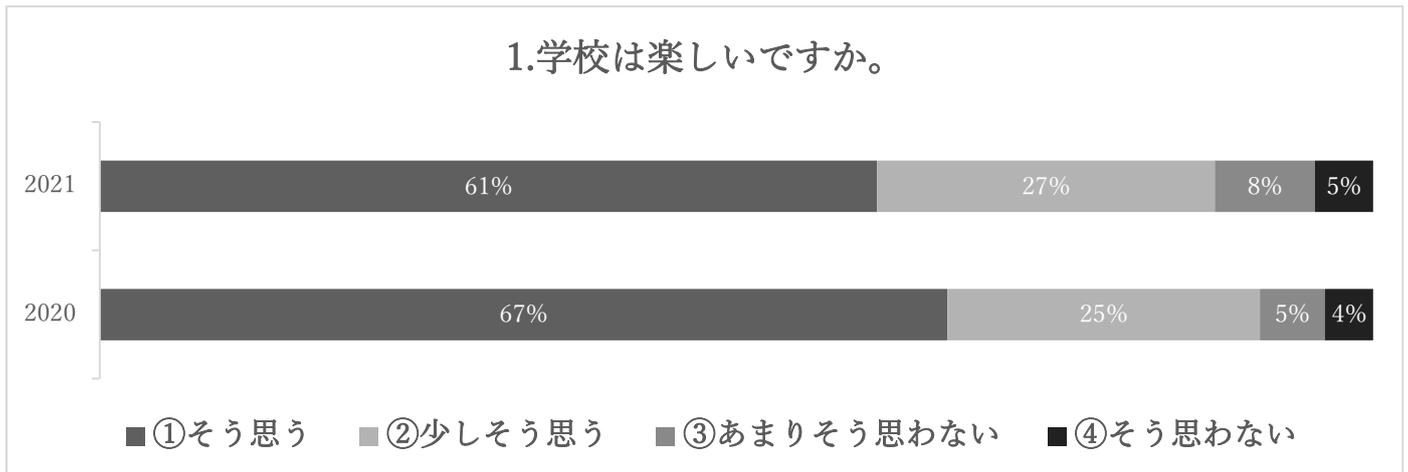


12・14の設問については、PTA 活動や行事がコロナ禍で実施できなかった結果と捉えます。コロナ禍でもできる活動方法や活動自体の見直し等を進める必要があると考えています。

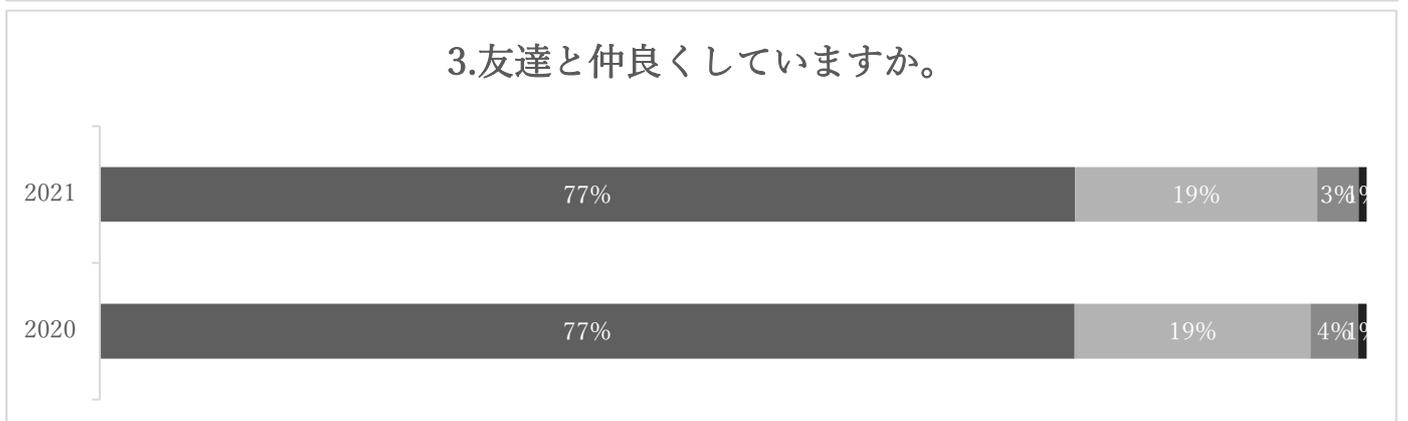
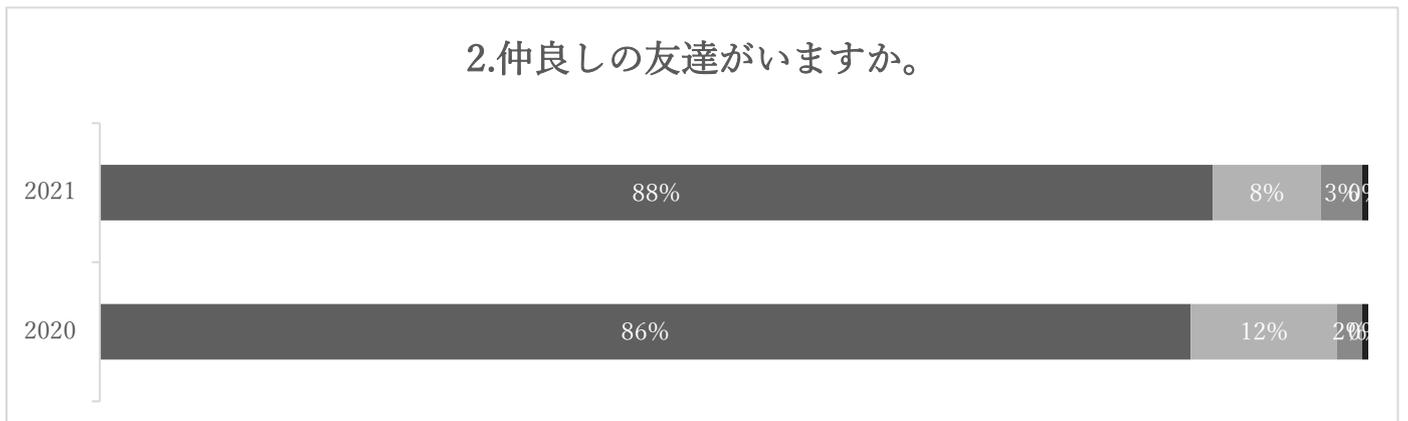
13については『当てはまる』という回答が少しですが増えています。児童や学校の様子を直接見ることができない状況の中で教育活動が具体的に伝わるような、おたよりやホームページを心掛けています。多くの皆様に見ただけのことは嬉しく思います。保護者のみならず、地域の方々、関係する皆様に学校を理解していただけるよう、さらに情報発信に努めていきます。

《児童アンケートより》

◇ 楽しい学校生活が送れているかについての設問です。

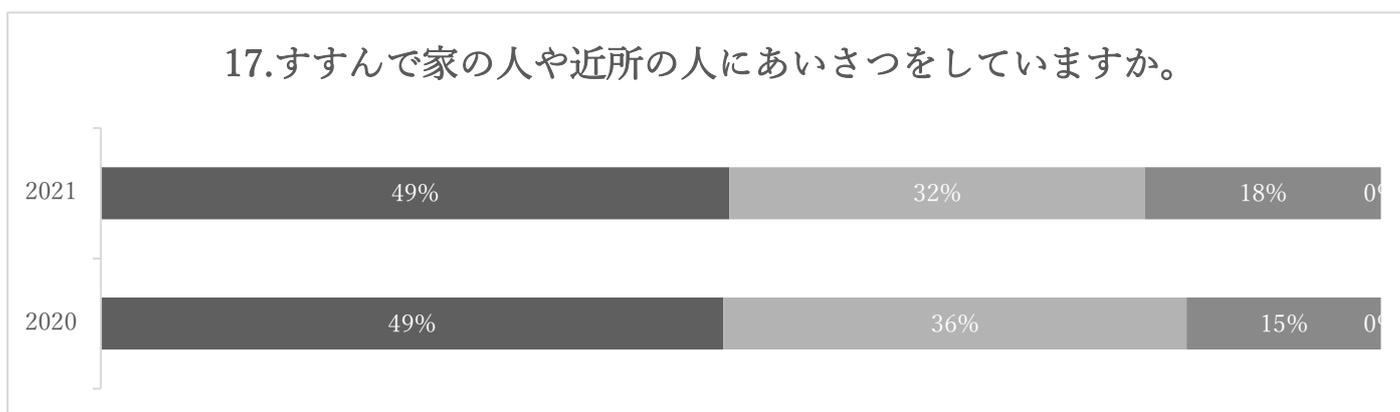
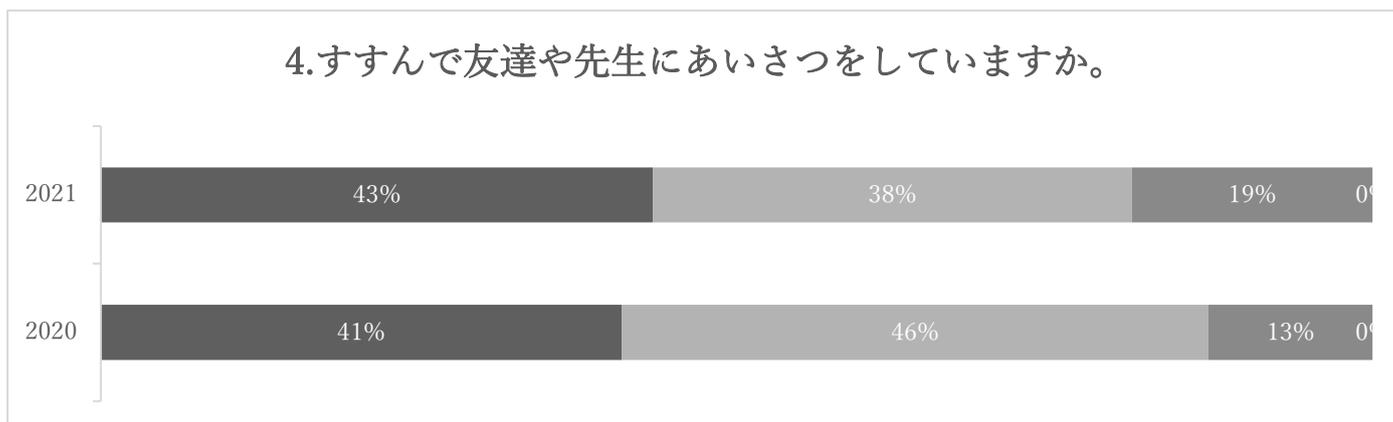


この設問については、保護者アンケート同様に、残念ながら『当てはまる』という回答が減っています。感染防止対策の制限のある中で、友達同士のコミュニケーションが思うように取れないこと、学校行事等の児童が楽しみにしていたことが、中止や変更を余儀なくされたこと等が一因であると捉えています。子どもたちが楽しいと思う学校づくりは大切です。学習活動はもちろんのこと、日々の生活や行事等、すべての教育活動の中で、一人ひとりが居心地良く過ごせる工夫を重ねていきます。また、児童にもより良い学校生活を楽しむために、自ら考え主体的に行動できるよう、指導・支援をしていきます。



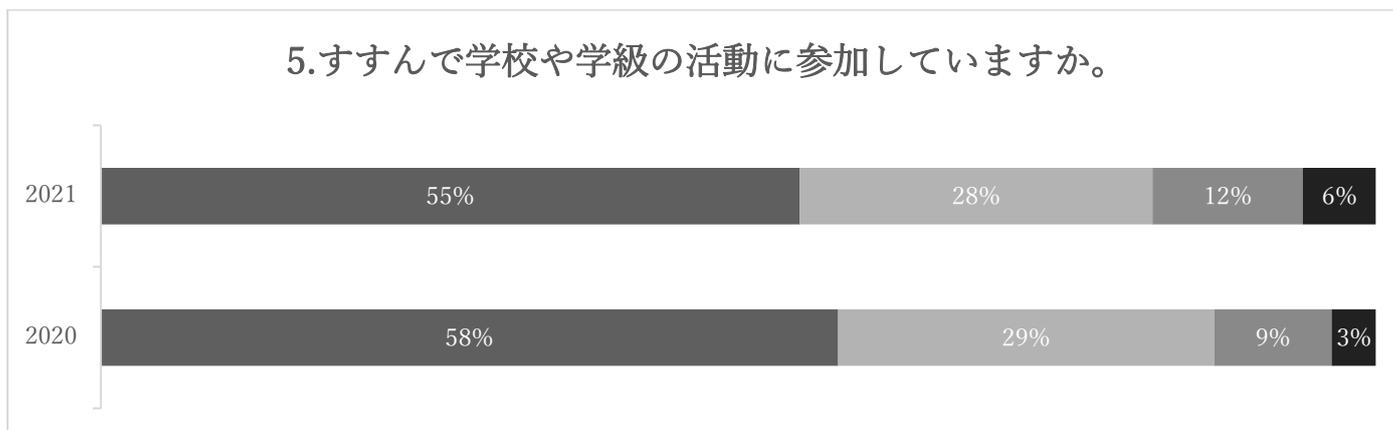
友達関係については例年同等に肯定的回答が95%を超える大変良い結果が続いています。学び合いの授業を通し、互いを理解しあい受け止めあえる関係づくりや、道徳教育等を通して、友達と仲良くすることの大切さなどを自分事として学んでいる結果の表れと捉えています。友達との安心できる人間関係は楽しい学校生活に欠かせないものです。今後も取組を継続していきます。

◇ あいさつを積極的に行えているか、についての設問です。



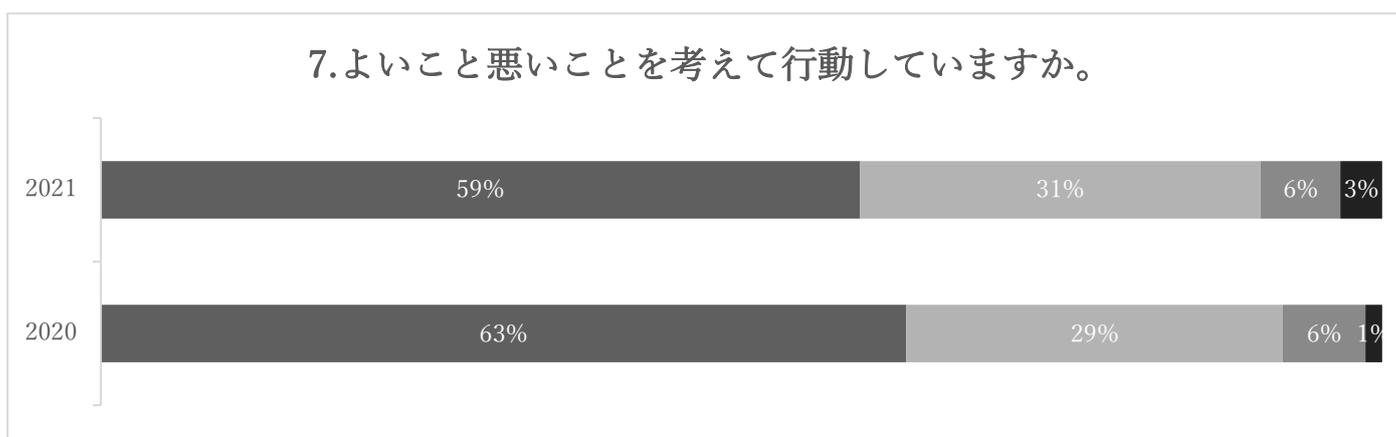
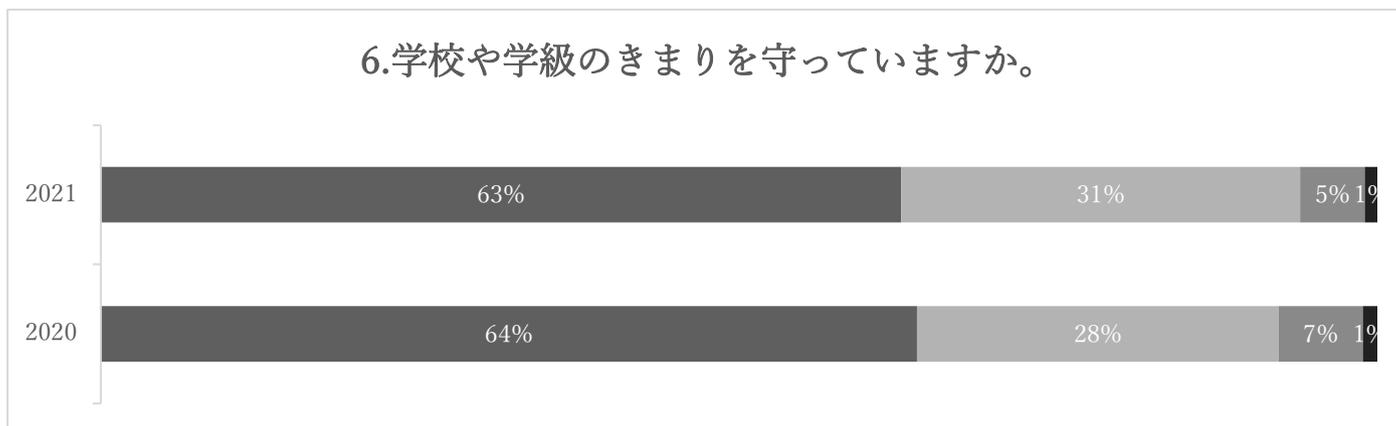
児童会では今年度もあいさつに力を入れて、積極的にあいさつ運動を行ってきました。設問に対する『そう思う』の答えは微増と横ばいの結果ですが、どちらも肯定的回答は下がっており、実感としてはこちらの結果が納得できるものです。コロナ禍の影響があることは否めませんが、あいさつはコミュニケーションの第1歩です。あいさつの意義や大切さを考えさせながら、今後も児童・教職員・PTA・地域がともに、あいさつ運動を広げていけるよう進めていきます。

◇ 集団への適応性についての設問です。

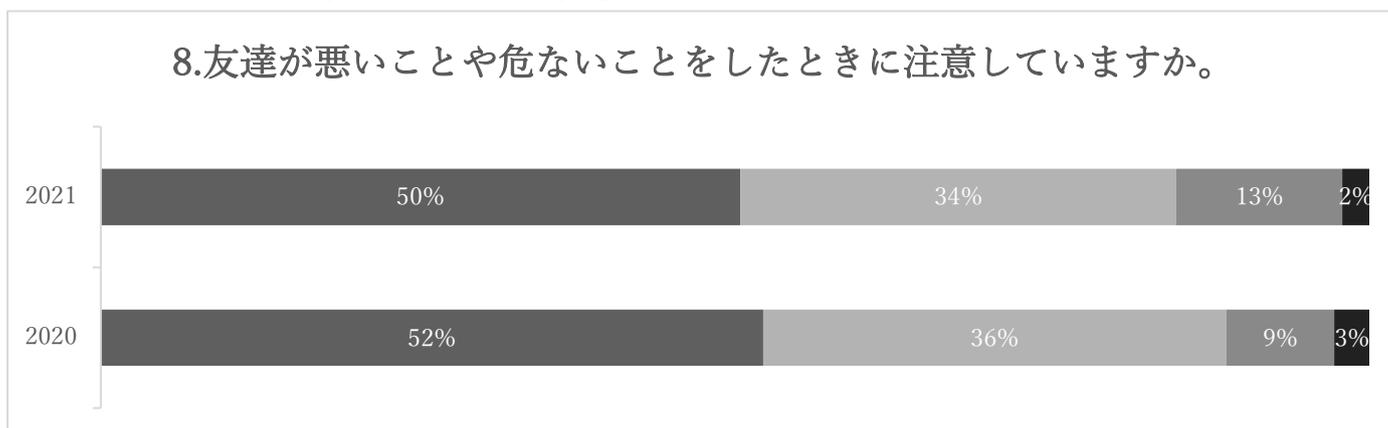


本校では、一人ひとりが居心地の良さを感じながら、主体的に活動できる集団(学校)づくりをめざしており、とても大切な設問です。残念ながら昨年度に比べ『そう思う』を含めた肯定的な回答が減ってしまう結果となりました。集団の中で、安心して自分を生かし主体的に関わっていくためには、受け皿となる集団の在り方が問われます。道徳教育と日々の生活を結び付け、思いやりの心を基盤とした、他者受容や多様性を受け入れる集団作りを進めていきます。さらに児童が自ら考え行動する場面を意図的につくる教育活動を進めていきます。

◇ 規範意識や責任意識についての設問です。

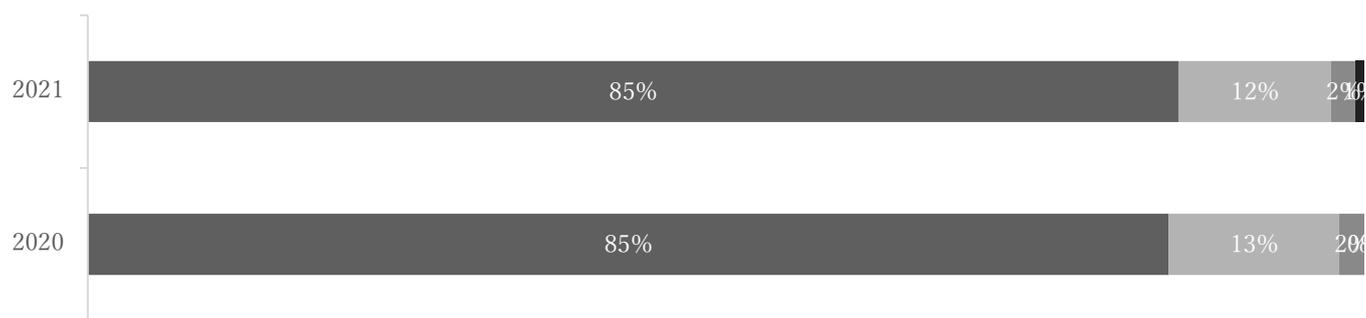


規範意識に関しては、ここ数年肯定的回答が90%を超えています。規範意識の価値が児童に理解され、定着していると捉えています。しかしながら『そう思う』は下降傾向が見られます。今後も家庭と連携しながら、日々の生活の中で場面に応じて具体的に考え行動できるよう指導していきます。

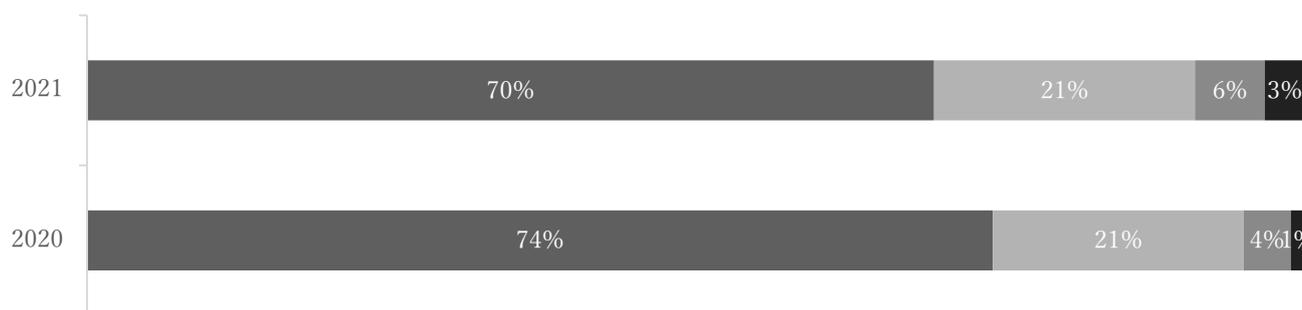


この設問については、昨年度に比べ肯定的回答が、わずかずつですが減っています。勇気を持って、注意できることが本当の思いやりや友情であるという姿勢が公德心でもありますが、実行することは簡単なことではなく、様々な葛藤が児童の心で起こります。このような気持ちを理解したうえで、公德心の価値を実感させ、仲間と共により良い学校生活を自分たちでつくっていかうとする意識を育てていきたいと思ひます。

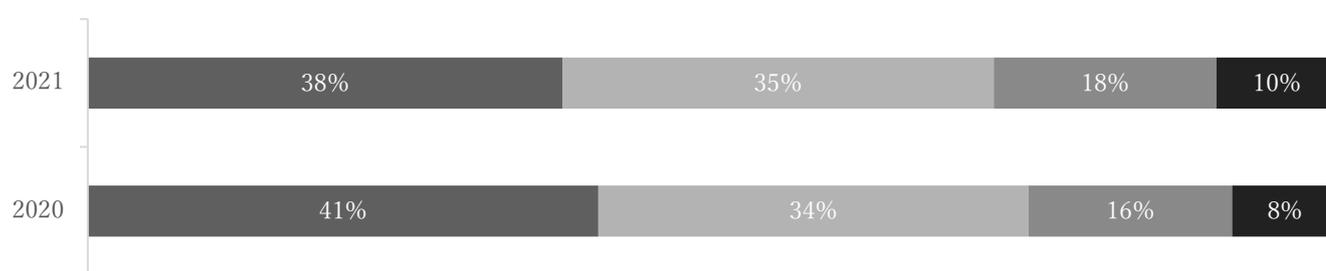
9.掃除当番や給食当番をきちんと行っていますか。



10.係や委員会活動の仕事をきちんと行っていますか。

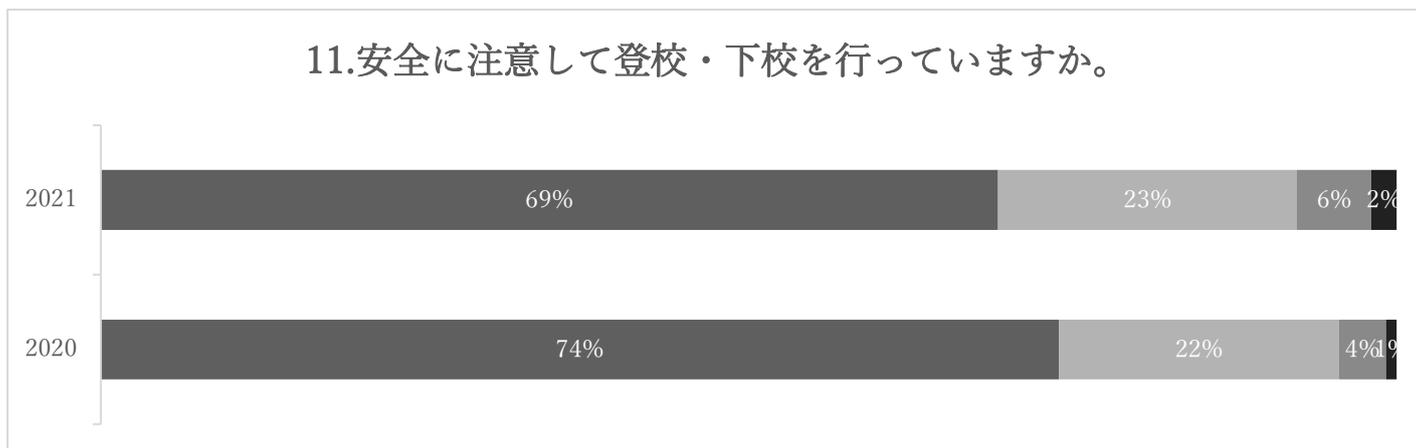


18.すすんでお手伝いをしていますか。



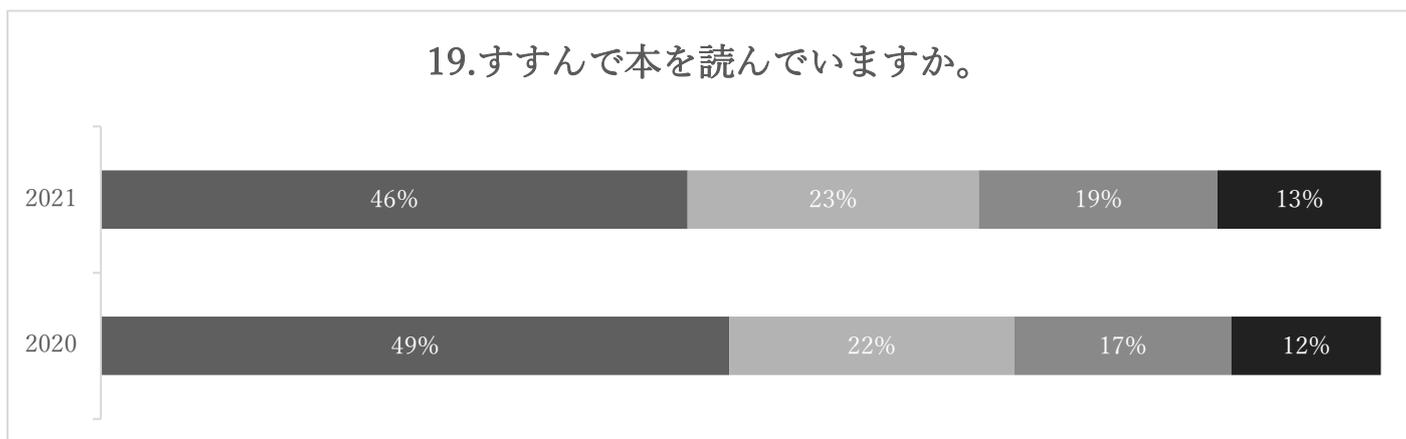
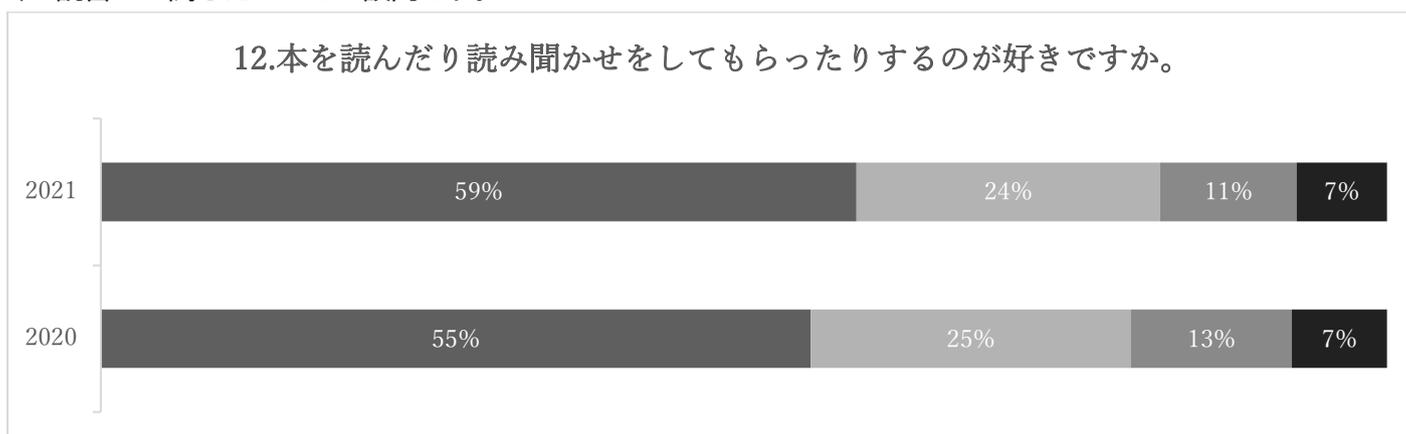
責任を持った行動について問う、3つの設問の肯定的回答の割合が、やや減ってきているのが気になります。教職員の子どもたちに対する評価も同様の結果でした。当番活動や委員会活動は「義務や責任を果たす」だけでなく「主体性を育てる」あるいは「自分は役に立っている」「誰かのためになっている」という「自己有用感を育てる」といった意味でも非常に大切であると考えます。その都度、感謝や承認のことばを伝えながら、主体的に責任感を持って取り組めるよう進めていきたいと思えます。

◇ 登下校の安全意識についての設問です。



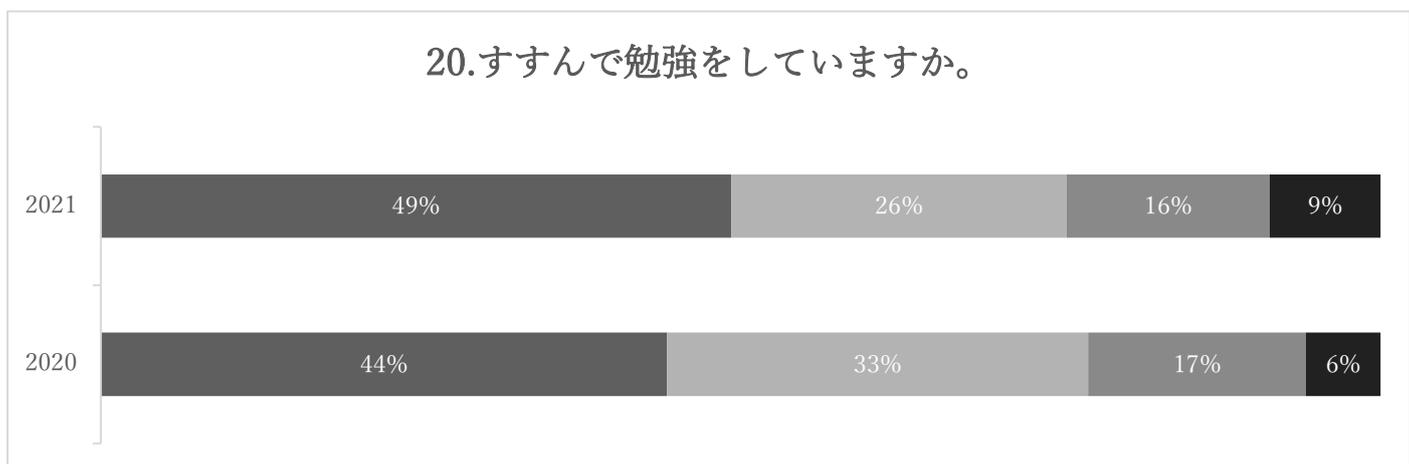
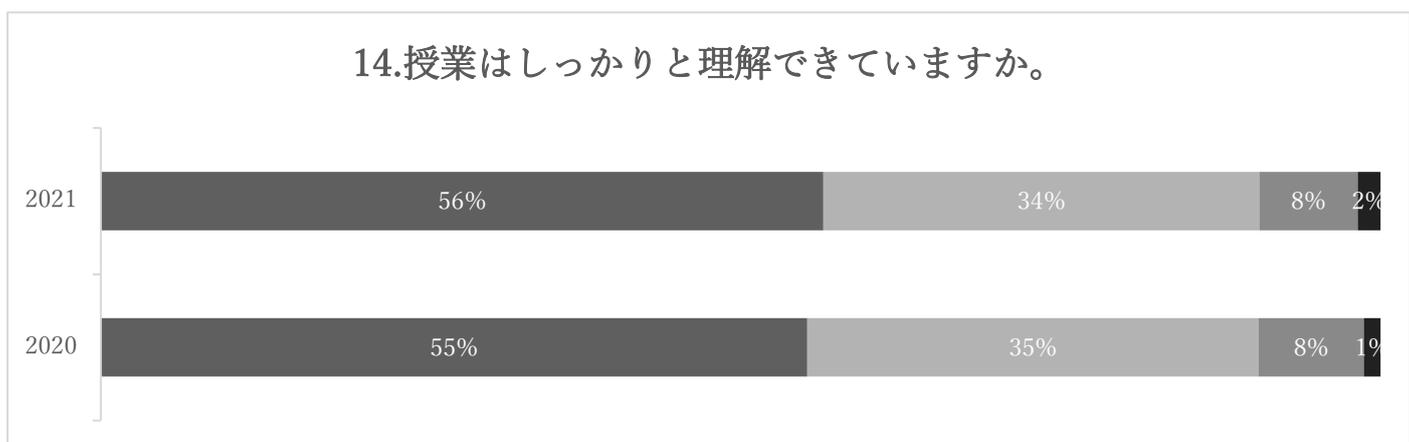
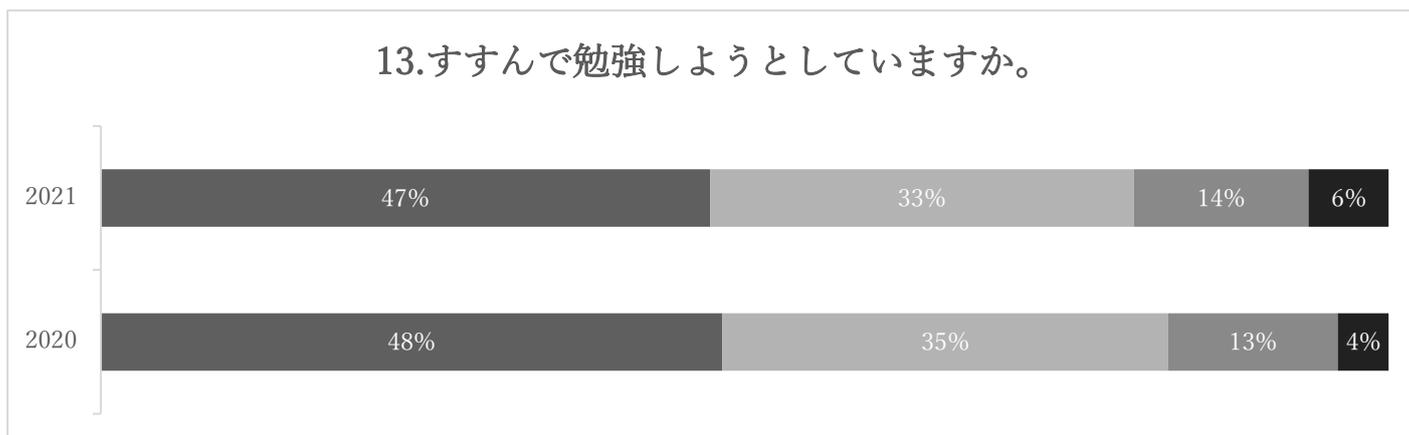
この設問については、昨年度と同程度で95%以上の児童が肯定的な回答をしています。しかしながら、交通事故につながりそうな事案や地域の方から交通マナーの悪さを指摘されることもありました。交通ルールを守り登下校することは、自他の命を守ることに繋がります。登下校でもそれ以外の日常生活の中でも、交通ルールを守った行動がとれるよう家庭や地域と連携した安全教育を進めていく必要があります。

◇ 読書への関心についての設問です。



本校は「おはなし会」「トトロの森」といった読み聞かせボランティアさんが長年にわたって活動を続けてくださっています。今年度もコロナ禍であっても、工夫をして活動を継続し、子どもたちは読み聞かせの楽しさを大いに味わっています。また学校図書館司書や図書委員会児童の読書推進の活動も継続しています。今後も多くの子どもたちが読書の楽しさを感じられる取組を工夫していきます。

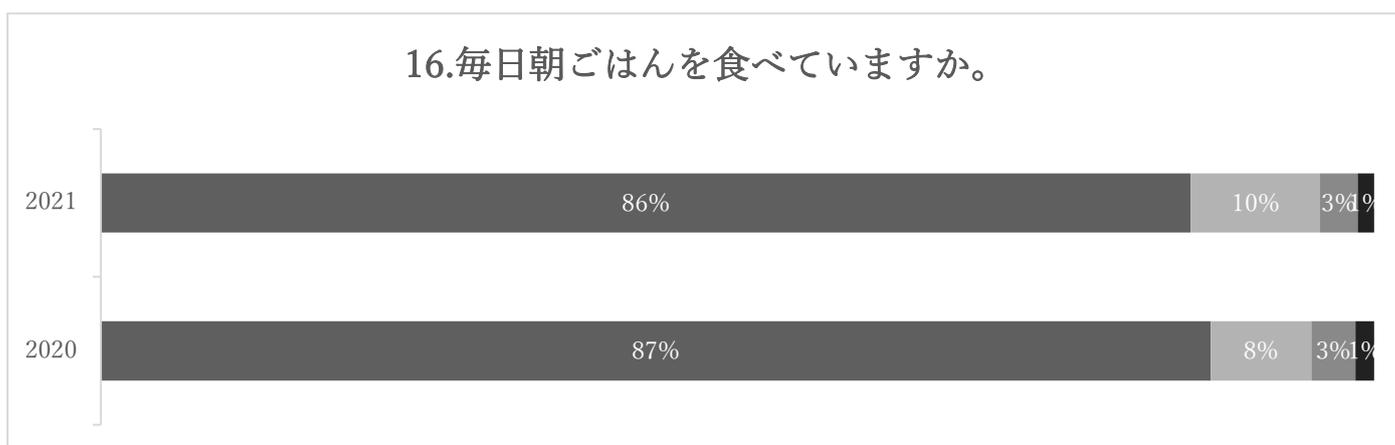
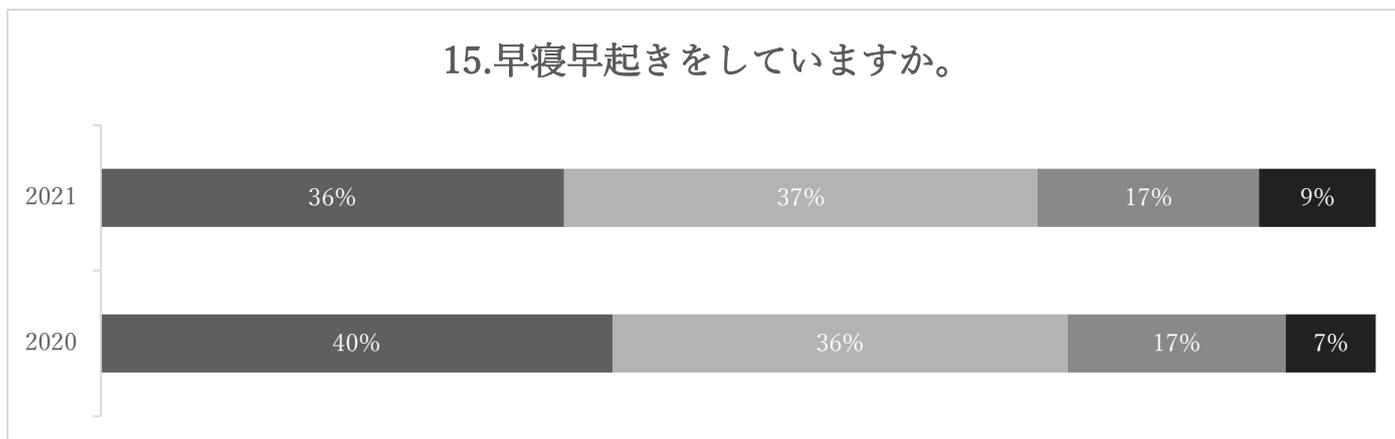
◇ 学習意欲についての設問です。



14の授業の理解については、昨年同様に90%が肯定的回答でうれしい結果でした。授業が分かる、学校が楽しいと登校できるように、これからも全教職員で授業改善や学習指導に努めてまいります。

13・20の学習意欲や主体的な取組については、自ら学び続ける姿勢をつくる大切なことと捉えています。学びたくなるような知的な好奇心を刺激するような授業や体験活動、さらに家庭学習等で主体的な学習ができるような工夫を今後も継続していきたいと思っております。

◇ 家庭での生活習慣についての設問です。



15の生活習慣については年齢があがるにつれ生活時間の乱れる傾向にあります。その原因のひとつに、ゲームやネット等に夢中になり、多くの時間を費やしてしまうことがあります。本校児童のインターネットに関わる状況は学校だよりでもお知らせしたとおり、スマートフォンの所持率が年々高くなっており、トラブルも比例して増えています。

16の朝ごはんについては95%を超える割合でとれているという高い結果です。朝食は脳や体のエネルギー源です。また、早寝早起きなどの生活習慣とも大きなつながりがあります。コロナ禍でも変わらない生活習慣を維持できていることは、家庭での働きかけや取組が大きいと感じています。

小学校・中学校時代には、勉強・運動・遊びのバランスが大切です。これからも家庭と学校が連携し、バランスの良い生活が送れるよう取り組んでいきます。

以上が今年度の学校評価アンケートの結果と考察です。

今後もアンケート結果を参考として、教職員一同より良い学校づくりを進めてまいります。

来年度もどうぞよろしくお願いいたします。

